

# 映像作品（映画）の日本語は字幕翻訳によって何が変わるのか

## ー日本語のセリフと英語字幕翻訳のテキストマイニングー

保坂敏子(日本大学) 豊田哲也(青山学院大学) 島田めぐみ(日本大学)

### 1. 研究の背景と目的

グローバル社会において、文化の流通に「翻訳」の果たす役割は大きい。例えば、日本の映画やドラマ、アニメなどの映像作品は、多様な言葉に翻訳され、「字幕翻訳」と共に提供される。それにより、世界中で幅広く受容され、日本語学習のきっかけになったり、日本へのインバウンド効果をもたらしたりしている。逆も、然りである。このように異文化間の理解や往還を翻訳が支えるようになった現在、翻訳研究では、等価主義アプローチから機能主義アプローチへとパラダイムがシフトし、原文志向から訳文志向、等価志向から機能志向へ重点が移り、翻訳の目的や機能にあった訳文にすることが重視されるようになってきている(藤壽2007)。字幕翻訳においては、映像作品が目標文化の人々に幅広く受け入れられるため、また、時間的・空間的の制約があるため、起点となる言語は目標文化の言語習慣や価値観に合わせて意識される傾向にある。では、意識された字幕翻訳において起点言語の何が変容するのか、字幕翻訳で映像作品を見る人には起点言語の何が伝わらないのか、映像作品などの字幕翻訳をとおして異なる言葉や文化に接する機会の多い現在、この変容を解明することは、異文化間理解や異文化間コミュニケーションにおいて意義のあることだと考える。また、日本の映像作品に親しむ日本語学習者が多く、日本語学習の支援のためにも示唆を得ることができるだろう。

そこで、本研究では、日本映画のセリフから英語の字幕翻訳へのシフトによって起きる変容の傾向を明らかにするために、アニメ映画『君の名は。』(新海誠監督 2016)と実写映画『そして父になる』(是枝裕和監督 2013)を取り上げ、起点テキストである日本語のセリフと目標テキストである英語の字幕翻訳を対象にテキストマイニングを軸とする比較分析を行う。分析手法としてテキストマイニングを用いるのは、字幕翻訳における変容の様相をできるだけ客観的に捉えるためである。本稿では、まず、分析の対象である字幕翻訳についてテキストとしての特徴を整理した上で、具体的な分析を行い、その結果について考察を加える。

### 2. 字幕翻訳の特徴

字幕翻訳には、言語内翻訳と言語間翻訳がある。オリジナルの言語を同言語にすることを言語内翻訳、オリジナルの言語を観客が理解できる異なる言語に翻訳することを言語間字幕と呼ぶ。本稿で比較分析の対象とするのは、起点のセリフを目標言語に移す言語間翻訳である。記号の面から見ると、言語間翻訳は、画像や文字(看板など)、音響(効果音、音楽など)を伴った音声(セリフ、歌)を文字に移し替える「複合異種記号」タイプの翻訳である。時間的に見ると、オリジナルの音声と同時に提示される「同期」タイプに位置づけられる。(ベイカー&サルダーニャ編 藤壽監訳 2013)。音声から文字へと変換する異種記号型の字幕翻訳は、読む速度が話す速度より遅いことから、時間的な制約を受ける。また、字幕翻訳とオリジナルの音声との同期も、時間的な制約となる。さらに、作品の映像を侵害しないように、字幕はスクリーンの余白に入れなければならないという空間的な制約もある。このような時間的・空間的制約のため、英語の字幕には、最大2行まで、それぞれ35文字までという字数制限が設けられている。日本語の字幕においては、これは、1行につき13文字で2行まで、1秒につき提示できるのは4文字、セリフの長さは最大6秒となる(篠原2012)。これらの制限により、字幕翻訳では、個別のことばの意味よりもコミュニケーション上の発話の意図が優先され、元の発話の削除や言い換え、補足などの訳出ストラテジーが施される。その結果、字幕翻訳ではオリジナルのセリフの43%が失われるとことが実証的に示されている(ベイカー&サルダーニャ編 藤壽監訳 2013)。

字幕翻訳の研究は近年注目を集めているが、英語を起点テキストしたものも多く、非英語映画から英語テキストへの字幕翻訳の研究は少ないという(篠原2014)。日本映画の英語字幕を扱った研究はいくつか見られるが、起点の日

本語テキストにおける異文化要素（篠原 2014）やポライトネスの側面（牛江・西尾 2009）に特化して質的に分析を行ったものである。起点テキストと目標テキスト間の変容の全体的な傾向を掴むために量的にアプローチしたものは管見の限り見当たらない。本研究で客観的な観点から量的に検討することで、翻訳の利用者の立場に立った、利用者に見えやすい形でテキストの変容が解明できるものと考えられる。

### 3. 研究の方法

#### 3.1 分析の対象作品

本研究の分析の対象は、世界で受容され、流通している日本映画であるという点を重視して、アニメ映画『君の名は。』（新海誠監督 2016）と実写映画『そして父になる』（是枝裕和監督 2013）を選択した。『君の名は。』2016年8月に日本で公開された直後から人気を集め、世界135か国でそれぞれの言語の字幕翻訳が付けられ公開された作品である。岐阜県の山奥の町で暮らす女子高生の「三葉」と東京で暮らす高校生の「瀧」が時空を超えて入れ替わる話を軸に、彗星の地球への接近による出来事に果敢に立ち向かう姿を通し、人と人、人と自然の「結び」などのテーマが扱われている。『そして父になる』は、2013年の第66回カンヌ国際映画祭で審査員賞を受賞した作品で、産院で子どもを取り違えられた2組の家族の葛藤を通して、家族の愛や絆といったテーマを描き出している。

両者とも分析にはDVDに収録されていた日本語のセリフと英語字幕の文字化資料を使用した。『君の名は。』には日本で発売されたDVDに日本語字幕と英語字幕、中国語字幕の3か国語が付いており、日本語のセリフと英語字幕を文字化して分析資料とした。『そして父になる』は日本で発売されているDVDには日本語字幕しか収録されていなかったため、イギリスで販売されている日本語音声と英語字幕付きのDVD『Like Father Like Son』を入手し、文字化資料を作成した。

#### 3.2 分析の方法

それぞれの映画の日本語のセリフと英語の字幕翻訳の資料について、①語彙の出現頻度から変容の全体像を検証するため、また、②主要な登場人物の関係性に変容があるかを明らかにするために、テキストマイニングを実施する。①では、それぞれのテキストの語彙を出現頻度の高い順に並べ、上位20位までの語彙について比較検討する。②では、テキスト毎の語彙の頻度を用いて、登場人物に関する類似度のクラスタ分析を行う。日本語の分析項目としては内容語を中心に動詞、名詞、形容詞、形容動詞、副詞、感動詞、フィラーを取り上げた。英語の分析の枠組にはフィラーは含まれておらず、人称代名詞は別立てとなっていた。このため、人称代名詞については、日本語のテキストマイニング後のデータからそれだけを取り出す作業を行った。

### 4. 分析の結果と考察

#### 4.1 語彙の出現頻度

語彙の出現頻度から変容の全体像を検証するため、『君の名は。』と『そして父になる』の日本語のセリフと英語字幕翻訳にテキストマイニングにかけて、語彙の出現頻度順に並べ、上位20語を取り出すと表1、表2のとおりとなる。

日本語と英語の結果を比較して最も特徴的なのは、『君の名は。』でも『そして父になる』でも、英語字幕では「I」「you」が1位と2位を占めており、それ以外の人称代名詞も散見されることであろう。日本語の何がこれらの人称代名詞に置き換わったかを分析結果で見ると、『君の名は。』では、「俺」「お前」「私」が上位に入り、また、呼称として使用されたものと思われる主人公の固有名詞「三葉」「瀧くん」が上位に入っており、これらが変容したことがうかがえる。一方、『そして父になる』では、日本語の分析結果には人称代名詞は見当たらず、対応していると思われるのは、主人公であるエリート建築家の息子として育てられた子供「慶多」と、その息子が建築家の父を呼ぶ時の「パパ」という呼称のみである。この結果から、日本語では属性や関係性により自称・対称・他称にバリエーションが見られたものが、英語では人称代名詞に置き換わり、バリエーションの使い分けなどのニュアンスがなくなることで、また、英語の人称代名詞の頻度の多さからは、日本語では省略されていた主語が、英語では人称代名詞で明示化されたであろうことが読み取れる。また、名前の「呼び捨て」についても両テキスト間の変容がうかがえる。具体的には、『君の名は。』のオリジナルの日本語では「三葉」には呼び捨てが使われ、「瀧」には「～くん」が付けられることから、そこに付随する誰から誰への呼び方である、その関係性はどのようなものかなどがうかがえるが、英語では両者とも名前の呼び捨てになっており、そのような情報は消失している。この他、『そして父になる』では、日本語では「慶多」と「パパ」多いことにより、この物語で2人の位置づけが重要であることが感じられ、また、「パパ」と呼ぶ家庭環境であるというイメージも伝えているが、英語では、これらに該当するのは「Keita」のみとなっている。この

作品では、取り違えられた息子「慶多」を6年間育てた建築家の父親が、血縁か、一緒に過ごした時間か、息子との関係について葛藤することにより、本当の「父」になっていく姿が物語の軸となっている。日本語のリストからは、物語におけるその2人の重要性がうかがえるが、英語のリストからは、それを感じることはできない。

表1 『君の名は。』語彙の出現頻度（上位20語）

順	単語	品詞	頻度	順	単語	品詞	頻度
1	する	動詞	82	1	I	PRP	210
2	あ	フィラー	69	2	you	PRP	152
3	え	フィラー	66	3	's	VBZ	102
4	三葉	名詞	60	4	n't	RB	81
5	瀧くん	名詞	52	5	it	PRP	78
6	あつ	感動詞	50	6	is	VBZ	69
7	ハア	名詞	48	7	You	PRP	68
8	何	名詞	44	8	It	PRP	51
	俺	名詞	44	9	Mitsuha	NNP	48
10	お前	名詞	41	10	Oh	UH	41
11	誰	名詞	38		me	PRP	41
12	いる	動詞	35	12	are	VBP	38
13	一	名詞	32		was	VBD	38
14	私	名詞	31	14	'm	VBP	37
15	人	名詞	28	15	're	VBP	35
16	やる	動詞	25		Taki	NNP	35
17	ああ	感動詞	24	17	we	PRP	29
18	それ	名詞	22		be	VB	29
	どう	副詞	22		your	PRP\$	29
20	町	名詞	21	20	do	VBP	28
	ない	形容詞	21		so	RB	28
	ちょっと	副詞	21				
	ある	動詞	21				

表2 『そして父になる』語彙の頻度（上位20語）

順	単語	品詞	頻度	順	単語	品詞	頻度
1	する	動詞	145	1	I	PRP	261
2	慶多	名詞-固有名詞	66	2	you	PRP	205
3	うん	感動詞	59	3	's	VBZ	136
4	一	名詞-一般	51	4	it	PRP	107
5	なる	動詞	47	5	n't	RB	97
6	言う	動詞	45	6	You	PRP	92
7	もう	副詞	40	7	is	VBZ	72
8	はい	感動詞	38	8	'm	VBP	59
9	いい	形容詞	34	9	Keita	NNP	58
10	何	名詞-代名詞	33	10	It	PRP	53
11	パパ	名詞-一般	32	11	your	PRP\$	51
12	ああ	感動詞	28	12	're	VBP	44
	これ	名詞-代名詞	28	13	good	JJ	43
14	ない	形容詞	27	14	me	PRP	39
	ある	動詞	27	15	so	RB	38
16	思う	動詞	26		was	VBD	38
	やる	動詞	26	17	we	PRP	37
	そう	副詞	26	18	not	RB	36
19	ちょっと	副詞	23	19	here	RB	35
	なんで	副詞	23	20	do	VBP	34

#### 4.2 登場人物の類似度のクラスタ分析

主要な登場人物の関係性の変容を検討するために、テキスト毎の語彙の頻度を用いて、主要な登場人物に関する類似度のクラスタ分析をした結果、『君の名は。』は図1（日本語）と図2（英語）、『そして父になる』は図3（日本語）と図4（英語）の通りとなった。

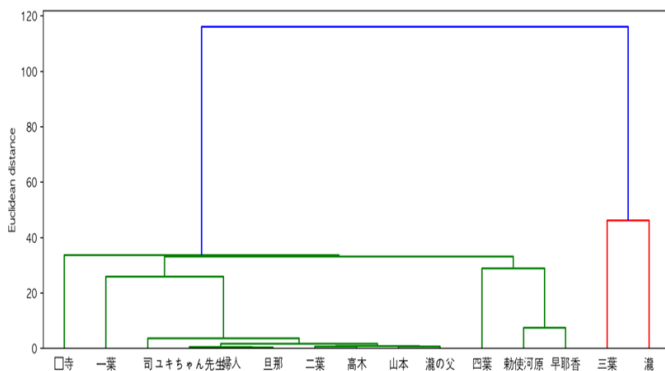


図1：『君の名は。』（日本語）登場人物のクラスタリング結果

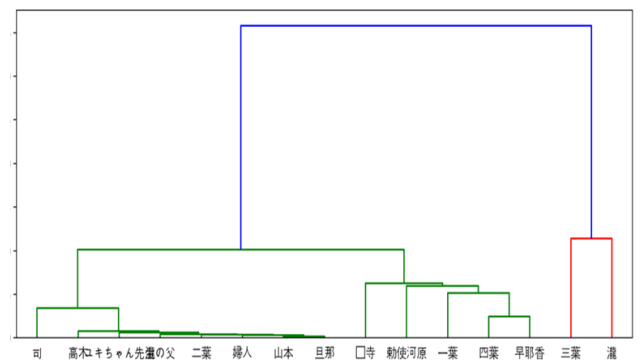


図2：『君の名は。』（英語）登場人物のクラスタリング結果

『君の名は。』では、主人公の三葉と瀧は日本語も英語もともに最も類似性が高く、この点では変容は見られなかった。日本語と英語で類似性が変化したのは三葉の祖母の「一葉」と瀧のバイト先の「奥寺先輩」である。日本語ではそれぞれ別のクラスタだったが、英語では2人とも三葉の妹の四葉や同級生たちと同じグループに含まれる結果となった。一葉は四葉と同じ岐阜の町に住み、同じ空間で生活を共にし、映画の中でも家族で話す場面が多かったので、クラスタに移動したことは首肯できる結果である。しかし、東京で暮らし、レストランでアルバイトをする奥寺

は、瀧をはじめとする後輩たちと話をする場面が主で、いわゆる先輩キャラとして特徴的な描かれ方をしており、ストーリーの中で三葉やその家族である一葉、四葉との接点はない。この個性的なキャラクタが、英語字幕により言葉の上では消えてしまうことが分かった。

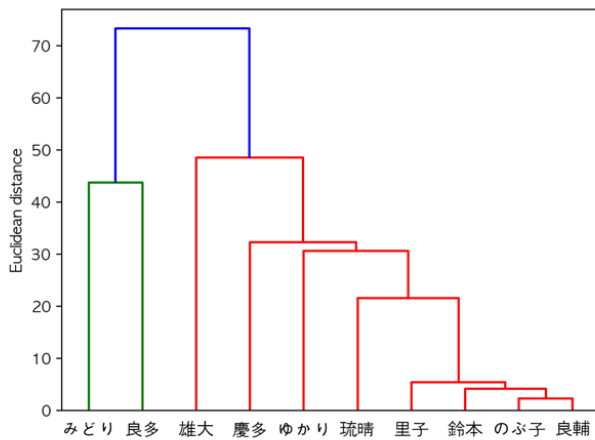


図3:『そして父になる』(日本語) 登場人物クラスティング結果

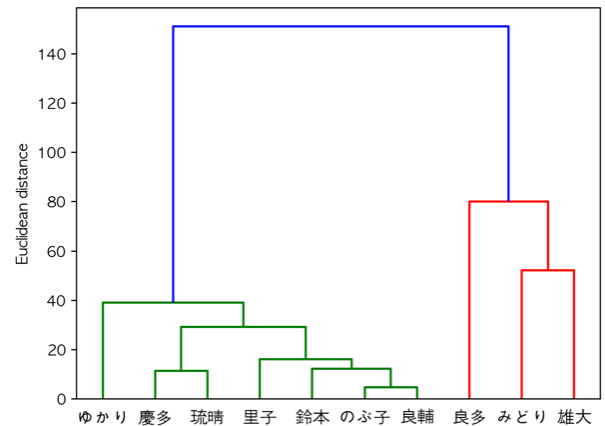


図4:『そして父になる』(英語) 登場人物クラスティング結果

『そして父なる』においては、日本語のセリフでは建築家の夫婦と他の登場人物とでクラスタが大きく2つに分かれていたが、英語字幕ではこの建築家夫婦2名のグループに、取り替えられた相手先の父親「雄大」が加わり、関係性に変化が見られた。映画の中で「雄大」は田舎で小さな電気店を営む人物という設定で、雄大夫婦とエリート建築家夫婦とは、生活状況が大きく異なる様子が描かれている。雄大の個性的で気さくなキャラクタが、エリート建築家にもう一人の父親として大きな揺さぶりをかける。英語字幕により同じクラスタになったということは、言葉の上でこのキャラクタ設定なくなったということであろう。

## 5. おわりに

今回の分析で、日本語で省略される主語が英語字幕では人称代名詞で明示されること、また、日本語の「呼称」のバリエーションは英語の人称代名詞では喪失し、言葉の使い分けで人間関係や心理状況を表す日本語の機能が失われることが分かった。また、強い個性で描かれる人物は、日本語より英語字幕の方が主人公や他の人物との類似性が高くなった。これは個性が平板化されたためと思われる。字幕翻訳では情報が削除されることにより、人間関係が分かりにくくなり、個性も平板化されると言える。本研究は、翻訳によって失われる要素や、平板化される要素など、字幕翻訳における変容の一端を示したに過ぎないが、そこから、言語学習や言語教育において映画を利用する際の示唆が得られた。

**謝辞** 本研究はJSPS 科学研究費・基盤(C)17K02867の助成を受けたものである。

## 参考文献

- 牛江ゆき子・西尾道子 (2009). 日本語映画の英語字幕に見られるポライトネス 通訳翻訳研究, 9, 253-272.
- 篠原有子 (2012) 映画字幕は視聴者の期待にどう応えるか 通訳翻訳研究, 12, 209-228.
- 篠原有子 (2013) 映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素(日本的有標性)の翻訳方略に関する考察 通訳翻訳研究への招待, 9, 87-98.
- 篠原有子 (2014) 日本映画の英語字幕における訳出要因について—制作プロセスと視聴者に注目して— 通訳翻訳研究, 14, 97-114.
- 藤壽文子 (2007). 翻訳行為と異文化間コミュニケーション—機能主義的翻訳理論の諸相— 松籟社
- ベイカー, M. & サルダーニャ, G. 編集 藤壽文子監訳 (2013). 翻訳研究のキーワード 研究社